

第2回「NIPPON防災資産」の深化を考える会 開催結果概要

「『NIPPON防災資産』の深化を考える会」の趣旨

本会の開催は、第一線で活躍されている認定団体の関係者の皆様による意見交換・議論を通じて、災害による犠牲者を一人でも減らすための視点・要素、既存の取組やこれからの取組へ反映できる気付き等を洗い出し、整理することを目的としています。

ここで得られた知見は、認定団体の関係者による取組への深化に反映されるだけでなく、広く全国を取組に共有されることで、それぞれの施設の利用者、活動への参加者の皆さんが、災害リスクを自分事化し、災害に備える行動を起こすことにつながっていくことを期待するとともに、それぞれの関係者の知見の共有を通じた相乗効果により、「NIPPON防災資産」の制度の一層の発展・活性化に繋げていくものです。

開催概要

◆テーマ

行動変容につながるNIPPON防災資産と流域治水の実践的連携 – 地域の防災力向上を目指して –

◆開催日時

令和8年3月12日(木) 自 14時00分 至 16時30分

◆主催者

国土交通省

◆参加者

①第1回「優良認定及び認定」の内、対象災害を水害とする案件関係者（9名）

②①に関連する流域治水協議会担当者（12名）

③NIPPON防災資産選定委員会委員（4名）

④国土交通省（4名）

（Web傍聴者：認定関係者、行政関係者、災害の自分事化協議会委員等、約120名）

No.	種別	①名称	活動拠点	対象災害	②関係する流域協議会
1	第1回 優良 認定	えちごせきかわ 大したもん蛇まつり	新潟県 関川村	昭和42年8月 羽越水害	荒川流域治水協議会
2		和歌山県土砂災害啓発センター	和歌山県 那智勝浦町	平成23年水害	和歌山県 (二級河川那智川水系)
3		広島市豪雨災害伝承館	広島県 広島市	平成26年8月 豪雨	太田川流域治水協議会
4	第1回 認定	信濃川大河津資料館を拠点とした 地域活性化の取組	新潟県 燕市	信濃川水系に おける水害	信濃川流域治水協議会
5		福知山市治水記念館	京都府 福知山市	昭和28年9月 台風13号等	由良川流域治水協議会
6		坂町自然災害伝承公園	広島県 坂町	明治40年、 平成30年豪雨	広島県西ブロック 流域治水協議会
7		乙亥会館災害伝承展示室	愛媛県 西予市	平成30年7月 豪雨	肱川流域治水協議会

◆会場

広島市豪雨災害伝承館 研修室

第2回「NIPPON防災資産」の深化を考える会 開催結果概要

主なご意見

テーマ	ご意見の要旨
<p>1 情報と空間と 活動の共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> 災害伝承施設と流域治水協議会が一体となって、地域ごとに防災研修、防災学習を実施していきたい。 流域のダム等の施設見学の際、災害伝承施設もセットで案内すると効果的だと思う。 毎年、国土交通省の事務所や自治体が実施している小中学校に対する出前講座に、災害伝承施設で案内をしている方に来ていただき、講座内容の充実を図りたい。 防災資産のネットワークを作ってほしい。他の認定団体がどんな活動をしているかわかるようになるとうい。
<p>2 地域住民を はじめとした 仲間づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 損保協会、地方紙等の団体も巻き込んで、活動の幅を広げてほしい。 災害伝承施設と流域治水協議会が連携して実施する防災教育において、マイ・タイムラインを活用すると相乗効果が得られるのではないかと。 地域で詳しい方はよく来訪していただけるが、それ以外の方になかなか広がっていかないのが課題 スタッフの高齢化が進み、若い人をどう増やすかは悩みでもある。国交省の現役、OB、市等の行政の方が多かった。大学の先生を会長に会を立ち上げ、イベントに参加した地域の方にお声がけして、徐々に増やしていき、NPO法人化した。
<p>3 防災でない 観光との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産の周辺で、砂防堰堤を設置したり高潮対策事業を実施したりしており、観光施設と防災施設を絡めて色々な人に見ていただくことも必要。 今後、近隣の観光施設の観光客を取り込み、町全体に広がりを持たせていき、認定施設で学習していただくことを考えている。市と連携して広報していきたい。 市の観光ツーリズムの団体が受賞した手づくり郷土賞のコンテンツの一つとして、流域治水や治水記念館を利用できないか。
<p>4 学校等との 連携強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小学校3、4年の社会科の副読本に施設が紹介されて来場者数が増えた。 県の建設業協会にも協力してもらって、市内の小中学校を中心に募集・案内を行っている。 小学校4年以上であれば、学習した内容は記憶に残るとの話もあるので、小学校4年以上をターゲットにして、積極的にPRしていきたい。 大学研究センターは防災教育のノウハウがあると思うので、今後連携していきたい。 小学生がメインで、帰って両親と話して避難経路、避難場所の確認、一歩進めばマイタイムラインの作成まではいくと思う。知る、自分事化まではいってもなかなか行動につながらないのではないかと危惧している。 防災に対して関心のない層を取り込むことが重要であり、流域治水協議会のネットワークやツール等を利用して、災害の教訓を伝えていきたい。 新聞社に限らず、医療機関、建設業界の方々、多くの企業の方々の研修の場として活用していただき、熱い方、意識の高い方の発掘に力を入れていただきたい。

第2回「NIPPON防災資産」の深化を考える会 開催結果概要

主なご意見

テーマ	ご意見の要旨
<div data-bbox="91 430 205 520" style="background-color: #808080; color: white; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">5</div> 行動変容につながる工夫	<ul style="list-style-type: none"> • ダムができて安全度が高まり安心しているが、施設で防げない災害も起こりうることを語り部の皆様が説明している。 • 安心の気持ちそれを打ち破る行動として、災害時の画像・映像、避難時の情報等で示しつつ、災害は繰り返し発生していること、ハード整備が進んだとしても気象条件の変化からより大きな災害が生じる可能性があること、特に土砂災害は突発的に起こるので、危ないときは必ず安全なところに避難することを研修内で説明 • 直近の豪雨時に生の情報がなかなか伝わらなかった。マスコミでは、住民の不安を煽る情報は伝えにくい。河川事務所等でカメラを設置しているので、濁流等の映像を生で伝えられると行動につながると思う。マスコミの問題意識等を踏まえて、検討していただきたい。 • 連携については色々な方法が見えてきたが、行動変容にまでつなげることはなかなかハードルがあることも見えてきた。行動変容に特効薬、即効薬はないので、今回出てきたアイデアを1個やればいいというものではなく、色々なことをやり続けたいといけな